## 編集後記

明治鍼灸医学より明治国際医療大学誌に変わってから既に8年が経った．ここ数年の間に各大学，研究期間で研究倫理についての教育が義務づけられるようになり，大学誌においてもその科学的正しさに曇りがあってはならないことはいうまでもない．

一方でインターネットの発達や論文のpdfでの公開が当たり前になり，情報の拡散は瞬く間に行われる．インターネットでつぶやかれる事柄の最頻値には，ある程度真実が含まれることから，このような「つぶやき」をビックデータとして処理し，世界で起こっている事柄を正しく把握するサイエンスも生まれている．その一つにはインフルエンザの流行の予想などに利用可能という報告もある．

また, インターネットで拡散される情報の多くは, その情報源を明らかにしない記事も多い．インターネットの発展した社会において，多くの雑誌を含め査読された雑誌は，一次の情報源であることを改めて認識することが必要と思われる．一般に学術誌の多くではピア・レビューを行っている．しかし，大学誌となると研究テーマや方法論が異なる研究者の集まりで，その査読は難しい点も含んでいる．今回の号には看護学部から2つの投稿があり，査読者には他領域の先生にもお願いしている．査読者は，必要に応じて専門外の関連する論文を読み返すなどご苦労をおかけしたものと思われる．先にも述べたように，学術誌は一次情報源としての役割が高く，多くの研究の礎になる情報である．

この明治国際医療大学誌は，いわゆる医学誌と異なり，医学はもちろん，東洋医学や柔道整復学，看護学を含み，今後は救急救命学などを加えて，医学を含む周辺医学の内容を扱う雑誌であり，現代医療における統合医療のあり方や，代替医療をテーマとした研究も含んでいる．今，医療の置かれた社会状況で，これらのことがらに関して正しい情報を発信することは重要で，そのために編集委員の方々は努力している．今後も，投稿者はもちろん読者の協力の上，よりよい広い分野を含む医療系学術雑誌として成長を続けられることを祈っている．

明治国際医療大学編集委員会
梅田 雅宏